

IPA 情報発信第 160 号 (2017 年 8 月)

2017 年 9 月 1 日

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

理事長 富田 達夫

<IPA 情報発信第 160 号の内容>

今月のトピックス

1. 産業サイバーセキュリティセンター短期プログラム「業界別トレーニング」を実施

業界特化型の短期プログラムとしては第一弾となる、「電力業界、不動産・ビル管理業界」の CISO 補佐クラスの方に向けた「業界別トレーニング」を実施しました。

2. 「セキュリティ・キャンプ全国大会 2017」を開催

「セキュリティ・キャンプ全国大会 2017」を開催し、書類選考で選ばれた小学生から大学生までの合計 82 名が参加しました。本年は定員を 30 名程度増加し、専門講義に「集中コース」を新設しました。

3. 「IT パスポート試験」における合格者の最年少年齢を 9 歳に更新

IT パスポート試験に 9 歳 (小学 4 年生) が 2 名合格し、これまでの最年少年齢 (10 歳) を更新しました。

I. 安全な IT 社会の実現

1. 「安心相談窓口だより」組織における標的型攻撃メール訓練は実施目的を明確に
2. 「安心相談窓口だより」主に中高生を対象としたセクストーション被害に関する注意喚起
3. 日常における情報セキュリティ対策
4. 長期休暇における情報セキュリティ対策
5. 重要なセキュリティ情報 (8 月)

II. IT システムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. 「明日の自動車産業を支えるモデルベース開発最前線」にて講演
2. 「つながる世界のセキュリティ～IoT&セキュリティ技術の今とこれから～」にて講演
3. 「えくすぱーと・のれっじ・セミナー」にて講演
4. SEC セミナー開催報告 (8 月) と SEC セミナー開催案内 (9 月)

今月のトピックス

1. 産業サイバーセキュリティセンター短期プログラム「業界別トレーニング」を実施

(担当：産業サイバーセキュリティセンター)

IPAは、産業サイバーセキュリティセンターの人材育成事業において提供する業界特化型の短期プログラムの第一弾として、「電力業界、不動産・ビル管理業界」のサイバーセキュリティ対策を現場で統括するCISO/CIO補佐、系列企業のCISO/CIOを担われている方などを対象とした「業界別トレーニング」を8月25日(金)～26日(土)に実施しました。

当日は、経済産業省の伊東寛大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官を始め政府関係者の参加も得つつ、様々なリスクに関するシナリオを用いた演習(グループワーク)などを実施しました。演習では、欧米の最先端のフレームワークが紹介され、受講者は、これらを駆使して仮想企業のサイバーセキュリティ成熟度を評価するなどしました。

なお、「業界別トレーニング」は、2018年3月末までにさらに2回の実施(秋・冬各1回)を予定しており、ファクトリー・オートメーション(FA)、自動車、プロセス・オートメーション(PA)などの分野を対象とする方向で検討中です。

さらに、産業サイバーセキュリティセンターでは、米国から講師・ファシリテーターを迎えて実施する「業界共通トレーニング」も実施しています。次回は10月13日(金)～14日(土)に実施予定で、9月15日(金)を締め切りに受講者を募集中です。米国電力会社等のサイバーセキュリティ対策責任者を歴任し、現在はリーバイス(Levi Strauss & Co.)のチーフ・セキュリティ・アーキテクトを務めるスティーブ・ザルースキー氏が来日予定です。

<https://www.ipa.go.jp/files/000061189.pdf>

2. 「セキュリティ・キャンプ全国大会2017」を開催

(担当：イノベーション人材センター)

IPAは、8月14日(月)から18日(金)まで、クロス・ウェーブ府中(東京都府中市)にて、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で「セキュリティ・キャンプ全国大会2017」を開催しました。

本年は310名の応募者の中から、書類選考で選ばれた小学生から大学生までの合計82名が参加しました。全体講義ではコミュニケーション力向上のためのグループワーク等が行われ、専門講義では少人数で自分の学びたいコースごとに分かれての講義を実施し、千葉県警によるサイバー犯罪捜査の模擬講義等、多様な講義が実施されました。また、本年は定員を30名程度増加し、専門講義

に「集中コース」を新設しました。この「集中コース」では、「ものづくり」をテーマとして、各自で開発テーマを選択し、ハッカソン形式による開発演習を3日間連続で行いました。実際にもものづくりを体験することにより、開発者目線でのセキュリティを考えるきっかけ作りとしています。

本大会の参加者が、将来、情報セキュリティ分野における最前線で活躍することを期待します。

「セキュリティ・キャンプ全国大会 2017」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2017/zenkoku2017.html>

3. 「IT パスポート試験」における合格者の最年少年齢を 9 歳に更新

(担当：情報処理技術者試験センター)

IPA は、8 月 15 日（火）に、国家試験「情報処理技術者試験」（所管：経済産業省）の一区分である「IT パスポート試験（i パス）」の平成 29 年 7 月度の合格者を発表しました。

平成 29 年 7 月度は、12 歳以下が 4 名応募し、3 名が合格しました。そのうち 2 名は 9 歳（小学 4 年生）であり、これまでの最年少年齢（10 歳）を更新しました。

なお、「i パス」を開始した平成 21 年 4 月から平成 29 年 7 月までの 12 歳以下の応募者数は 113 名、合格者数は 21 名でした。また、昨年度（平成 28 年度）における応募者数は約 8.6 万人（平均年齢 26.2 才）、合格者数は約 3.8 万人（平均年齢 28.1 才）となっています。

「IT パスポート試験に 9 歳（小学 4 年生）が 2 名合格」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20170815.html>

I. 安全な IT 社会の実現

1. 「安心相談窓口だより」組織における標的型攻撃メール訓練は実施目的を明確に (担当：セキュリティセンター)

IPA は、7 月 31 日（月）に「『安心相談窓口だより』組織における標的型攻撃メール訓練は実施目的を明確に」を公開しました。

組織においては、不審なメールを受信した場合、さらには添付ファイルを開いてしまった場合、ウイルス感染等の被害に遭うことがあり、その被害拡大を抑止すべく適切な対処を行う必要があります。そのため、有事に備えて、セキュリティ企業が提供している“標的型攻撃メール訓練”サービスを利用したり、自前でシステム管理部門等が中心となって同様の訓練を実施したりするケースがあります。

標的型攻撃メール訓練の実施において留意すべきポイントは以下の 2 点です。

- (1) 実施目的を明確にして訓練内容を決定する
- (2) 訓練による第三者への影響を考慮する

「『安心相談窓口だより』組織における標的型攻撃メール訓練は実施目的を明確に」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/mgdayori20170731.html>

2. 「安心相談窓口だより」主に中高生を対象としたセクストーション被害に関する 注意喚起

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、8 月 10 日（木）に「『安心相談窓口だより』主に中高生を対象としたセクストーション被害に関する注意喚起」を公開しました。

IPA ではこれまでにセクストーション（性的脅迫）に関する相談事例の紹介や注意喚起を行ってきました¹。IPA に寄せられたセクストーションに関する手口は、まず動画アプリと偽り、実際は電話帳の情報を窃取するアプリをインストールさせます。そして、取り交わしたプライベートな写真や動画²を、窃取した電話帳にある友人や知人に晒す、と脅して金銭を要求するものでした。しかし、中には不正アプリを用いることなく、正規の SNS アプリのメッセージ機能を通じて写真、動画をやり取りした結果、「インターネット上に公開する」と脅

¹ 2016 年 11 月 10 日 安心相談窓口だより: iPhone ユーザを狙った不正アプリによるセクストーション被害が発生
<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/mgdayori20161110.html>

2014 年 12 月の呼びかけ: 個人間でやりとりする写真や動画もネットに公開しているという認識を!
<https://www.ipa.go.jp/security/txt/2014/12outline.html>

² 主に自分自身の性的な写真や動画

迫されているケースもありました。

『安心相談窓口だより』主に中高生を対象としたセクストーション被害に関する注意喚起の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/mgdayori20170810.html>

3. 日常における情報セキュリティ対策

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、8 月 3 日（木）に「日常における情報セキュリティ対策」を更新しました。

情報セキュリティ対策は、日常的に行っていくことが重要です。情報セキュリティ対策を疎かにしてしまうと、ウイルスに感染してシステムに問題が発生したり、不正アクセスによって情報が流出したりといった被害が発生する可能性があります。

今回は以下の 2 項目を追記しました。

- ・ 組織のシステム管理者向け >>
 2. 社内ネットワークへの機器接続ルールの徹底
- ・ 組織の利用者向け >>
 6. 社内ネットワークへの機器接続ルールの遵守

「日常における情報セキュリティ対策」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/asures/everyday.html>

4. 長期休暇における情報セキュリティ対策

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、8 月 3 日（木）に「長期休暇における情報セキュリティ対策」を更新しました。

長期休暇の時期は、「システム管理者が長期間不在になる」、「友人や家族と旅行に出かける」等、いつもとは違う状況になりやすく、ウイルス感染や不正アクセス等の被害が発生した場合に対処が遅れてしまったり、SNS への書き込み内容から思わぬ被害が発生したり、場合によっては関係者に対して被害が及ぶ可能性があります。

今回は以下の 1 項目を追記しました。

- ・ 組織の利用者向け >>
 2. 社内ネットワークへの機器接続ルールの確認と遵守

「長期休暇における情報セキュリティ対策」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/asures/vacation.html>

5. 重要なセキュリティ情報（8月）

（担当：セキュリティセンター）

IPAでは、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報³」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA情報発信では2013年12月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身のPCやシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください

8月は、「緊急」0件、「注意」4件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

II. ITシステムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. 「明日の自動車産業を支えるモデルベース開発最前線」にて講演

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPAは、8月3日（木）にアトリウム長岡（新潟県長岡市）で行われた「明日の自動車産業を支えるモデルベース開発最前線」にて講演しました。

近年、自動車が多機能化、高機能化する中で「モデルベース開発」が車両開発現場の常識となっていますが、中小のソフトウェア企業は様々な理由により取り組めていない状況であり、モデルベース開発を理解できる人材の育成が喫緊の課題でした。

本セミナーは、公益財団法人にいがた産業創造機構（NICO⁴）による主催で、

³ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

⁴ NICO(Niigata Industrial Creation Organization):「新潟県の産業を活性化する」というミッション達成のため、「むすぶ」「育てる」「創る」という機能を発揮しながら、「創業・経営革新の促進」「次代をリードする産業群の創出」に取り組んでおり、新潟県産業労働観光部産業政策課が所管する公益財団法人。

組込みシステム開発企業（ものづくり企業、ソフトウェア企業）や自動車関連企業へのモデルベース開発の必要性・考え方などの概念普及を目的として、行われました。

IPA は「最新の組込みソフトウェア開発事情」というテーマで講演しました。当日は 120 名の方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

IPA では、今後も IoT 時代に向けて幅広い技術が求められる組込み技術者向けに情報発信を継続していきます。

『『明日の自動車産業を支えるモデルベース開発最前線』にて講演』の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.tech-nagaoka.jp/news/12625.html>

2. 「つながる世界のセキュリティ～IoT&セキュリティ技術の今とこれから～」にて講演

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、8 月 9 日（水）に福岡 SRP センタービル（福岡県福岡市）で行われた「つながる世界のセキュリティ～IoT&セキュリティ技術の今とこれから～」にて講演しました。

本セミナーは特定非営利活動法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム（QUEST⁵）による主催で、つながる世界で生じる新たな脅威や対処すべきリスクなどに関連した事例、及び具体的なセキュリティ技術も交え、様々な分野のテーマについて講演が行われました。

IPA は「IoT 機器や関連システムに求められる安全安心のための機能と機能要件」というテーマで講演しました。

IPA では、今後につながる世界の安全安心を実現するための活動を継続していきます。

『『つながる世界のセキュリティ～IoT&セキュリティ技術の今とこれから～』にて講演』の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.quest9.sakura.ne.jp/quest/lib/exe/fetch.php?media=h29iotsem01.pdf>

3. 「えくすぱーと・のれっじ・セミナー」にて講演

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、8 月 24 日（木）に CIAJ 会議室（東京都港区）で行われた「えくすぱ

⁵ QUEST(Kyushu Embedded Software Technology Consortium): 産学共同の技術交流活動を通じて、会員企業における組込みソフトウェア開発技術を向上させ、それぞれの産業分野における会員企業の競争力向上により、九州の産業活性化を目的とする特定非営利活動法人。

一と・のれっじ・セミナー」にて講演しました。

本セミナーは、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ⁶）の主催で、情報及び通信ネットワークのセキュリティに関する動向を発信するために行われました。

IPAは「IoT時代の高信頼化要件とその実践に向けて～『つながる世界の開発指針⁷』のその後の展開状況～」というテーマで講演しました。

IPAでは、今後も「つながる世界の開発指針」を実際の現場で活用していただくためにセミナーや展示会での周知を行うなど、IoT時代に求められる安全・安心な製品の開発を推進していくための普及活動を継続していきます。

「『えくすぱ一と・のれっじ・セミナー』にて講演」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ciaj.or.jp/seminer/pdf/170824.pdf>

4. SEC セミナー開催報告（8月）と SEC セミナー開催案内（9月）

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPAは、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

8月は、次の日程で実施しました。

- ・SEC 先進事例応用セミナー 明日から使える ODC 分析⁸～事例とチュートリアルで未経験者でも高度なバグ分析が可能に～（8月2日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170802.html>

- ・「ユーザのための要件定義ガイド」に基づく要件定義品質の向上～要求を明確にするための勘どころ～（8月23日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170823.html>

9月は、次の日程で開催を予定しています。

⁶ CIAJ(Communications and Information network Association of Japan): 情報通信技術活用の一層の促進により、情報通信ネットワークに関わる産業の健全な発展を図るとともに、情報利用の拡大・高度化に寄与することによって、社会的、経済的、文化的に豊かな国民生活の実現および国際社会の実現に貢献することを目的とする一般社団法人。

⁷ IPAが2016年3月に公開した、自動車や家電等の様々なモノがインターネットを通じて相互に接続する「IoT社会」におけるセーフティ・セキュリティ等のリスクに対処するための業界横断的な開発指針。

日本語版：<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160324.html>

英語版：<http://www.ipa.go.jp/english/sec/reports/20160729-02.html>

⁸ ODC分析(Orthogonal Defect Classification:直交(交差)欠陥分類):定量的分析と定性的分析の両方の性質を併せ持つ品質技法。誰が分析しても分析能力によらず同じ結果になることが特徴。

- ・システムの信頼性向上に向けたソフトウェア開発定量管理の勧め～定量的データに基づくソフトウェア開発のプロセス改善を目指して～（9月6日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170906.html>

- ・【北海道開催】デジタルイノベーションで創る“スマートな北海道”～経営者にもわかるIoT導入の指針とつながる世界の要件定義の重要性～（9月7日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170907.html>

- ・「システム再構築を成功に導くユーザガイド」を用いたシステム化計画の策定～再構築のリスクと対策の合意に向けて～（9月12日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170912.html>

- ・事例から学ぶITサービス高信頼化へのアプローチ（第2回）～障害事例から根本原因を分析し教訓化するプロセスを学習～（9月13日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170913.html>

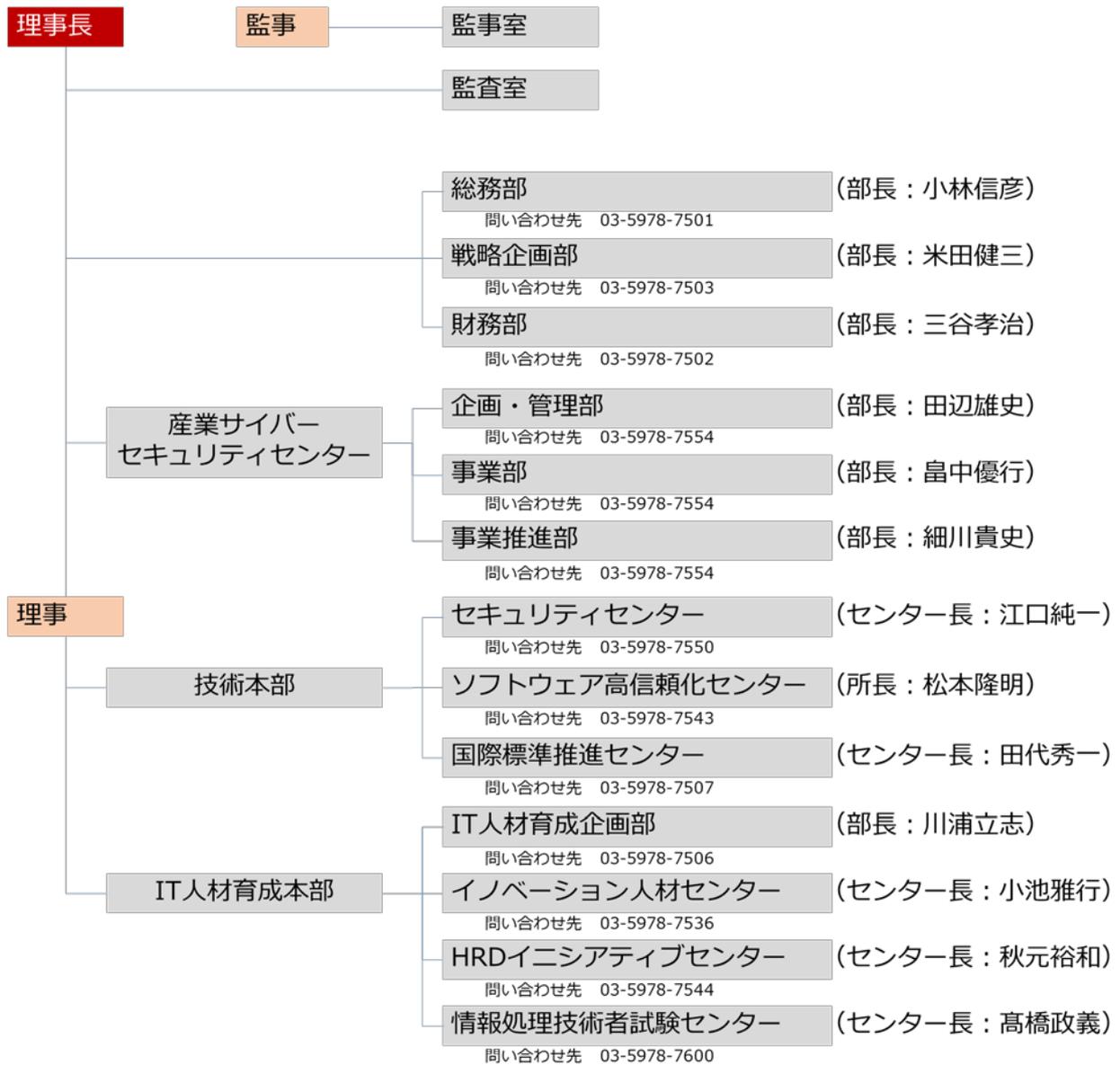
- ・京都から紡ぐ未来の安全・安心とは？～IoT時代のソフトウェア開発へのモデリング活用～（9月22日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170922.html>

- ・IoT時代のシステム開発の課題に立ち向かう～システムズエンジニアリング導入の勧め～（9月27日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170927.html>

● IPA 組織図



本書に関するお問合せ先
 戦略企画部 企画・調査G 福島・野村
 〒113-6591
 東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号
 文京グリーンコートセンターオフィス
 TEL : 03-5978-7503
 E-mail : spd-plan@ipa. go. jp